

子どもの笑顔が輝くまちへ お互い協力し合う子育てを



十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員によるコーナーです

「ゆっパル」の由来
この地方の方言で「結ぶ」という意味の「ゆっばる」と、英語で「仲間・友だち」という意味の「パル」からできています。「一人ひとりの思いが結びついて仲間をつくる」という願いが込められています。

政府では2020年までに男性の育児休業取得率を13%とする目標を掲げています。しかし、現状は3.16%（厚生労働省「平成28年度雇用均等基本調査」）にとどまっており、育児休業制度を利用する男性はごくわずかな状況です。

育児休業を取得できない理由としては、職場での業務が多忙であること、職場環境や育児休業制度が整備されていないこと、また育児休業は有給休暇ではないため、休業を取得することにより収入が減るなどさまざまです。

今号では、育児休業を取得した市内にお住まいの男性の例を紹介しながら、男女のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について考えてみたいと思います。



県内・外への出張などもあり、昌太くんを妊娠した時、仕事を継続できるかどうかの不安もあったため、昌史さんが育児取得を提案してくれたことが嬉しかったそうです。

男性の家事・育児への参加は、女性の就業継続や第2子以降の出産への大きな助けとなります。夫婦お互いが相手の気持ちを尊重し協力しあうことで、仕事と家庭のバランスをうまく保つことにつながっていきやすいですね。

出来ることから一歩ずつ

男性の育児休業取得者が多くなるためには、育児休業取得を申し出やすい環境を整えることも必要です。厚生労働省では、平成22年度より男

2年前に半年間育児休業を取得した、青森県職員の石井昌史さんご一家にお話を伺いました。

Q 育児休業を取得しようと思ったきっかけは？

妻の実家が北海道であり、両親も高齢になってきていて、出産時にこちらまで手伝いに来てもらうことができないので、サポートしてあげたいと思いました。また、当時配属されていた部署が、仕事をお互いカバーしやすい部署だったのと、職場でも男性の育児取得を勧められていたためです。

Interview



石井昌史さん(42歳)、朋美さん(43歳)、昌太くん(2歳)

ためです。

Q 育児休業を取得した際の職場や周りの反応は？

女性も多い職場で、産休・育児取得者も何人かいたため理解がありました。また、当時の男性上司には「育児をとりやすい環境になってきたなあ」と言われました。上司達の時代は、今のように男性が育児を取得することに前向きではなかったようです。私が育児を取得したあとにも、2、3人の男性の後輩が続いて育児を取得しました。

また、自分の実家（五戸町）へも頻りに顔を出すようになったため、両親も喜んでくれました。

Q 実際、育児休業を取得して一日中家で過ごしてどう感じましたか？

育児を取得した当初は、普段と雰囲気も違うし、上の子たち（当時小学5年生と2年生の女の子）のいろいろなことが目についてイライラしたりもしました。でも、遊ぶ時間が増えたことを子どもたちはとても喜んでくれました。

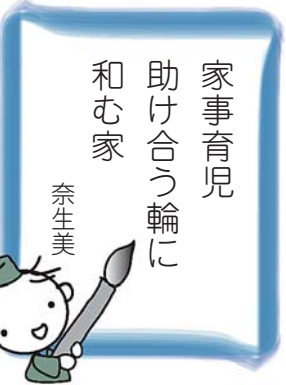
み重なれば大きな負担となります。夫婦お互いができることを補い合い、子育てがしやすい環境を整えば、女性の社会への参画も進み、あらゆる分野で活躍できる幅も広がります。子育ては「期間限定」です。忙しくしている今だからこそ、子どもとの大切な時間を作れるチャンスです。「男は外で働き、女は家庭を守る」という固定観念にとらわれずに、男性も女性も安心して仕事・育児ができる環境を作ってみませんか？

性の育児と仕事の両立を推進する「イクメンプロジェクト」を実施しており、中でも働き方の見直しなどにより業務改善を図っている企業を表彰する「イクメン企業アワード」（平成25年度より）、部下の仕事と育児の両立を推進し、自らも仕事と生活を充実させている管理職を表彰する「イクボスアワード」（平成26年度より）などで、男性の育児への参加を推奨しています。

男性の育児休業取得率を高くすることは、男性がどれだけ育児に参加するようになったかを数字で図るためではなく、男女が共に育児に関わり、夫婦が成長していくためにも必要なことです。

共働き世帯は年々増加傾向にあり、一方で主婦の毎日の家事・育児も積

ホットな一句



家事育児
助け合う輪に
和む家

奈生美



◆◆編集後記

男女共同には「思いやり」の気持ちが大切だと感じました。男性の育児休業制度の更なる浸透を期待します！(J)

イクメンやカジダン、イクボスという言葉が聞きますが、未だ遠い現状ですね。夫婦双方が助け合いをしなくては...と思っています。(K)

11月12日〜25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。広報とわた8月号に掲載された暴力根絶の記事で、1人でも多くの市民を救えますように...(S)

子どもとじっくり関われるのは10歳くらいまで。本当に子どもと過ごせる時間は短いものです。(S)

子どもはいつの間にかいろいろなことができるようになっていて、少しずつ子どもに頼ってしまう母です。(N)

「男性の育児休業」はまだまだ耳慣れない言葉だけれど、子どもを育てる楽しい時間は今だけ。家族みんなで育てることが大切!!(F)

編集 十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員 漆韶優美 花、木村奈生美、笹森栄子、新藤幸子、中野渡明美、深谷淳子

発行 総務課広報男女参画係

☎ 019-6702